

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373600283		
法人名	社会福祉法人サン・ライフ		
事業所名	グループホーム ジョイフル布袋		
所在地	愛知県江南市北山町東212		
自己評価作成日	平成29年11月8日	評価結果市町村受理日	平成30年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成29年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の利用者様のできる事を見極めて、日常生活の中でやりがいや生きがいを持って頂けるよう働きかけている。サービス担当者会議の前に、職員同士で話し合いの場を持ち、細かな部分まで支援方法を検討できている。外出の機会を多く持てるようにしている。個別外出にて本人様の希望の場所へ出掛けられるよう努めている。その方の1日のゆとりと充実を考えたアクティビティへの取り組みをしている。アートプログラムとして季節感を感じて頂けるような作品作りに取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ジョイフル布袋は、日本さくら名所100選にも選ばれた五条川から程近く、豊かな自然に囲まれた中に建つデイサービス併設の平屋建て1ユニットのグループホームである。隣接して同法人特別養護老人ホームがある。開設して15年、地域との関わりも増し、神事や江南市のサマーフェスタ等、毎年恒例の地域行事への参加も定例となっている。また、運営推進会議には江南市内の複数区の区長、民生委員の出席があり、地域の協力関係の構築にも積極的である。
 入居者の要望・意見を聴きとる「寄り合い」を毎月開催する他、家族の満足度アンケートも年2回実施する等、入居者、家族の思いに寄り添った暮らしの実現に向けて日々取り組んでいる。
 「少子高齢化社会をトータルサポートする」という法人のミッションを担い、ホームで暮らす入居者だけでなく地域に社会福祉制度のセーフティネットとして情報を発信していくことが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は毎朝申し送りの時に声に出し読んで確認を行っている。	法人理念と年度で話し合って決めたグループホームの接遇目標を毎朝唱和し職員間で共有している。理念を具体化するために、日頃の関わりの中で自立支援を意識し、入居者の自己決定のもと生活できるようサポートしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のスーパーなどに週2回程度は外出している。近隣のごみ拾いや、散歩の際に近隣の方と挨拶を交わしている。市のお祭りや町内のお祭りに地域の方の協力の下参加している。	町内会に加入している。町内の秋祭りは毎年参加しており、今年も入居者全員はハッピーを着て地域の子供達と触れ合った。また、江南市のサマーフェスタにも出向き、会館の1室を食事場所として提供されている。地域の中学校の福祉体験の実習の受け入れも3日間行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、地域の方に向けて話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、行事や事故の報告や満足度アンケートの結果の報告など行っている。地域の方とも意見交換が行っている。	区長(北山・南山・天王)民生委員(北山・南山・天王)包括・家族・入居者等で構成されたメンバーで年6回開催している。運営推進会議時に、参加メンバー立ち合いで地震想定避難訓練を実施し、防災や災害対策について意見交換を行う等、運営に活かす取組を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には年1回江南市高齢者生きがい課の職員が参加し、地域包括支援センターの職員は毎回参加して頂いている。運営推進会議の資料と議事録を提出している。	運営推進会議の案内と議事録を送付している他、日頃より、諸手続きで、市に出向いている。また、事業者講習会やケアマネ研修会には管理者が出席している。今年度は江南市の安心・安全ネットに加入し、防災・火災、気象・台風、防犯・学校情報、イベント情報のメールを受信できるようにした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年身体拘束に関する勉強会を実施しており、全職員が理解できている。日勤帯は玄関の施錠を行っていない。	玄関施錠は行っていない、人の出入りはセンサーマットを敷いて認識できるように工夫している。年3回、虐待や身体拘束についての勉強会を行っている。また、入居契約時には、身体拘束をしない旨を家族に説明し、その上で起こりうる事故等についても説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年3回高齢者虐待についての勉強会を予定している。虐待について振り返る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての勉強会を予定している。実際に成年後見制度を利用しようとしている人はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に時間をとり、ご家族へ重要事項と契約書の説明を行いご理解頂いた上で契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回利用者様から意見を伺う機会を設けている。年に2回満足度アンケートを行っている。運営推進会議に利用者様も参加して頂けるに声を掛けています。満足度アンケートの結果は運営推進会議の場で報告を行っている。	月1回、写真入りおたよりを担当者より個別にメッセージを添えて送付している。家族参加の行事として夏の盆踊り、冬の忘年会を開催している。また、年2回の家族に宛てた満足度アンケートを実施し、意見要望を聴く機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回GH会議を実施し、全職員が発言する場があり、その意見を業務などに反映させている。衛生委員会で職場環境の改善について検討している。	全体会議を月1回開催している。夜勤職員が仮眠するためのベッドの購入の要望があり、購入に向けての検討がされる等、職場環境や業務改善について意見を出し合っている。また、職員の満足度アンケートを年2回実施し、意見・要望を言い表せる機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	チャレンジシートを使用し、ハウスマネージャーとの面談を実施している。職員の状況に応じて、部署の異動なども行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部問わず職員個々のレベルにあった研修には参加できるように努めている。他事業所への研修を行い、自事業所との比較を行い、良い所を取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内GHとの交換研修を行っている。愛知県のGH連絡協議会へ加入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、ご家族から生活歴や嗜好などを伺っている。あらかじめ居室担当を決め、ご家族の対応を行いやすくしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前にはご家族に一度見学にきて頂きGHを診て頂く事や本人と面談し心身の状態の確認やご家族の要望等の確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に使用していたサービス事業所の職員や介護支援専門員から情報収集を行っている。ご家族の希望や都合により、場合によっては往診等の相談を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者様に自己決定をして頂けるような環境作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族参加の行事を計画し夏祭り等参加頂いている。病院受診時には状態報告を行っている。毎月の事業所新聞にて写真にて様子や居室担当より様子を記入し送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅近くの夏祭りに参加したりなじみの喫茶店やスーパーに出掛けたりしている。友人が面会にみえた時には、ゆっくりと話をし頂ける様に場所を提供している。入所前に生活歴など情報を収集しケアや個別外出の際に参考にしている。	友人の面会や地域のイベントや買い物に出掛けた際には、ゆっくり話が出来る様に配慮している。また、入居者の要望で定期的に、以前住んでいた家への外泊支援も行っている。毎年、家族・友人に年賀状を書き職員と一緒に近くのスーパーにあるポストに投函している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的に食事席の見直しを行い、利用者様が孤立しない様に配慮している。入浴や少人数の外出でも利用者様同士の関係性を考慮して行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等で退所になった場合、要望を確認し退所後に法人内の施設に入所して頂ける様段取りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からの会話などから希望等があった時は職員間で共有し叶えることが出来るように努めている。毎月利用者様との話し合いの中で要望等を聞く機会を作り、日常生活の中や個別外出にて反映できるように努めている。	入居前に本人・家族から生活歴や嗜好について聞き取る他、毎月入居者の要望を聴き取る機会「よりあい」を行っている。その際、入居者が答えに困らないように個々に質問の仕方に工夫する等配慮をしている。生活の中で家族と本人の要望に違いがあれば本人の気持ちを代弁し家族と話し合うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時などにご家族から生活歴を伺ったり、日々の会話の中から本人より伺い、記録に残し職員間で常用の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方の様子は個人記録へ残し、バイタルや入浴状況、食事摂取量なども毎日記録している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新前にはケアマネ、居室担当者でモニタリングを実施している。そこで挙げた変化や課題やをもとにご家族に担当者会議に参加して頂き介護計画を作成している。	基本的には年1回計画の更新を実施、3か月ごとに目標達成度の評価を行うと同時に家族・本人からケア満足度についての評価も実施している。目標に対するサービスの実施について携帯やパソコンで毎日確認できるように「ポイントケア」というシステムを導入している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様と関わった中で気づいた事は、個人記録へ残し、重要な内容は業務日誌へ残し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の希望や都合により、往診や訪問理美容を利用されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	食材の買い物は地域のスーパーを利用や近隣の喫茶店に出掛けている。町内のお祭りに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前から受診している医療機関へ入所後も引き続き受診して頂けるようにご家族へ依頼している。病院受診時にはご家族にバイタルや食事が記載した用紙をお渡しし最近の様子を伝えている。	契約の看護師が週1回健康チェックを実施している。それぞれのかかりつけ医への受診は家族が対応している。往診にも入居者が個別に契約している。受診前に、1週間分のバイタル表と必要な情報を家族に渡し、受診後に情報共有している。救急の際には本人の情報が持ち出せるファイルを用意している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携加算をとっており、1週間に1度看護師にてバイタルや心身状態の確認を行っている。何かあった時には看護師に相談しご家族への報告や受診をすすめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院である総合病院とは、入院が必要になった場合は連絡を取り合い、状態把握や相談等行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	自施設では、看取りケアは実施していない事を入所時にご家族へ説明し、同意書を頂いている。利用者様の状態に変化があった場合にはすぐご家族へお伝えし、ご家族の意向を伺いながら法人内の施設もすすめている。	入居の際に重度化した場合における対応に係る指針について説明し、同意を得ている。グループホームとして、活動的な生活が難しい状態になってきたら、同法人の特養への紹介や別の施設を探す支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について、勉強会を実施している。事故報告書があがった際は、毎月のGH会議にて対策と経過を話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月利用者様と共に避難訓練を実施している。災害対策マニュアルを策定し見直しを行っている。昨年度は地震想定での避難訓練を運営推進会議内で行い地域の方にご意見等伺っている。	消防立会の下、年2回の避難訓練を実施している他、地震想定で併設の特養までの避難をする訓練を毎月行っている。今年度は水害のマニュアルと避難計画を作成し、市に提出した。食糧・水3日分の備えと共に、家具の転倒防止対策の整備も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が、利用者様を人生の先輩である事を常に意識して対応を心がけている。接遇の勉強会やチェックシートを用いて自己・他者評価を行い丁寧な対応ができるように努めている。	「丁寧で温かみのある接遇を心掛けましょう」という年度目標を毎朝理念とともに唱和し、職員間で意識を共有している。申し送り時には、入居者の名前を使わずインシヤルや日誌に指さして行い、他者に分からない様配慮している。また、ホーム内研修を年1回、法人内研修を年1回実施し、接遇・環境チェックリストを用いて自己チェックと他者チェックを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出先や献立、入浴など日常生活の中での色々な場合で利用者様に選択肢のある声掛けに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で利用者様の意向を伺い職員間で共有できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をされる方は必要な物の確認を行い継続して頂けるよう努めている。外出時希望する物を購入できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食の食事の準備、片付けは利用者様と一緒にしている。新聞の広告を見て利用者様と献立を立てたり、誕生日にはその方に何を食いたい希望を伺っている。	献立は入居者の要望を取り入れながら職員が作成し、週3回程入居者と一緒買い出しにでかけている。調理はそれぞれ得意な事で(食材を切る・配膳・食器洗い)参加している。食事の際の席の配置は、気分転換や、関係性を考慮して定期的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の状況に合わせて調理した物の大きさを変えたり、食事量の調整を行っている。水分摂取量が少ない方は摂取量を観察したり、好みの飲み物を飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行って頂いている。利用者様の状況に合わせて声掛けや付き添いを行っている。義歯の管理の難しい利用者様は夜間職員管理としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の排泄パターンや状態にあった下着やオムツを検討し自立にむけた支援を行っている。	ほとんどの方が自立しているが、何かに集中していると忘れる事があるので、見計らって声掛けをしている。夜間は2時間に1回の巡視を基本とし、必要な1時間に1回巡視を行っている。便秘対策として、朝乳酸菌飲料や10時、15時のお茶の時間にココアや牛乳を提供している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳酸菌を摂取して頂き、散歩や体操など運動に努めている。入浴時などに腹満がないか確認を行っている。便秘や下痢が続くようであればご家族と相談し受診をすすめている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏季は毎日、冬場は2日に1度入浴できるよう声掛けを行っている。好みの入浴時間や温度を理解し希望に添えるように支援している。	浴槽が大きい為、仲の良い人同士で入浴する事もある。熱めのお風呂が好きな方には熱いお湯を足し湯し、長風呂が好きな方には事故ないように声掛けをしながら入浴していただく等、それぞれの今までの習慣や好みに配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後など休息の声掛けは行っているが、個々の睡眠サイクルや生活サイクルで過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の受け取りの際に薬の情報や内容を確認し、全職員へ周知を行っている。服薬マニュアルにそって薬の準備、投薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の利用者様の得意なことや状態に合わせて役割や趣味・散歩などの楽しみ事が行えるように支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段よりつづやきを拾い利用者様の行きたい所やしたい事を全体外出や個別外出で実行できるように伺っていく。散歩や買い物、喫茶店へ行き気分転換ができるように努めている。	天気が良ければ毎日散歩をし、食材の買い物には週3回程出掛けている。時には車で、公園やカラオケに出掛けている。また、春は花見、冬は初詣といった季節の外出行事もある。また、入居者の希望により行きたい場所へ出かける等、個別の外出支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の財布をお預かりしており、買い物や外出時などは財布を持って出掛けている。ご自分の支払いをする時には可能であれば利用者様に支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があった時は希望時は取次ぎ会話をして頂いている。携帯電話の持ち込みは可能で、使用ができていますか定期的に確認している。毎年、年賀状を利用者様に書いて頂きご家族に送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には季節の壁画や行事の写真などを掲示している。 温度・湿度計を確認しながらエアコンの使用や換気を行い利用者様にとって適度な室温を保つように努めている。	玄関・廊下・リビングには季節の飾りつけや入居者の作品、イベントの写真の掲示がある。リビングは広く花や野菜が栽培されている庭が見渡せる。「トイレ・便所」「風呂」とそれぞれの扉に掲示する等、入居者に分かり易くするための配慮がある。玄関のマットの下、廊下の死角になるところにセンサーを配置し、ホーム内の人の動きが分かるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席の他にソファを配置し、自由に過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具は自宅で使用されていたなじみのあるものを使用して頂いている。怪我等の危険性があるものはご家族に相談し利用者様にあったものを使用して頂いている。	使い慣れたベッド、筆筒の持ち込み、カーペットの敷いてベッドではなく布団を使用する方等、個々の居心地の良い空間づくりがされている。エアコン、洗面台、カーテン、温度計は備付である。毎日午前中に職員と一緒に居室掃除を行い清潔に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングに食事の内容やその日の予定を利用者様に書いて頂き掲示している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム ジョイフル布袋

目標達成計画

作成日: 平成 30年 3月 17日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の活性化	①会議内容の充実	①運営推進会議参加者から要望等伺っていく。 ②地域の取り組みを知り、どのように関わっていけるか話し合いを行っていく。	1年
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。